

上松町観光まちづくり計画策定業務 事業報告書

2024.3.15

NOTE

株式会社NOTE

※本資料は内部説明資料として作成しているため、資料内の写真資料等について著作権使用許可等をクリアしておりません。使用に際しては内部資料としてのご使用をお願いします。

1. はじめに

1-1. はじめに：本事業の目的

事業の目的

本事業においては、上松町の目標のひとつである第1期観光地域づくり計画の策定に向けて、地域住民に対して観光まちづくりにおける機運醸成を広く行うと共に、地域資源の調査及び歴史的建造物の保存と持続可能な活用方法について、実地調査や次年度以降の事業スケジュールを検討し、物件活用に向けての計画策定と、まちづくり開発会社組成の土壌を築くことを目的とする。



大屋 誠 町長

第1期観光地域づくり計画の策定に向けて

上松町は古くから豊かな森林資源に恵まれ、中山道の宿場町として栄えました。現在でも日本の文化を支える木工製品や製材など貴重な伝統産業が生き残る町です。また当町の赤沢自然休養林で始まった森林浴は予防医療や健康増進効果が注目され、国内外から来訪者が訪れるスポットとなりました。

しかし日本では少子高齢化の流れに歯止めがかからず、私たちの町にも過疎化による衰退の波が押し寄せています。さらに新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大し、全ての交流人口が停止する前例のない事態によって、地域振興の根本にかかわる地元産業・資源・文化を再認識する必要に迫られました。世界の潮流はSDGsに代表される「持続性」であり、地域づくりにも持続的な将来展望が求められています。そこで上松町では地域づくりの先進的事業者と包括連携協定を締結し、客観的な視点から上松町の地域資源を分析・活用することで交流人口の増加を目指す「観光地域づくり計画」を策定することとなりました。

包括連携協定を締結した株式会社NOTEは、地域の文化を100年先につなぐ「NIPPONIA」の理念に基づき、日本本来の風景や暮らしを資源として国内30か所以上の地域で地域再生に取り組み先進的企業です。また株式会社KANSOテクノスは、関西電力グループの一翼として木曽川の水資源を活用した木曽谷の近代化を見守り、世界規模の技術的視点から地域振興を支援しています。

上松町は、尾張藩の「木1本、首ひとつ」と呼ばれるほどの厳しい林政により再生された貴重な森林資源を保全しています。また昭和25年の大火から甦った不屈の町でもあり、これまで2度の持続的な地域再生を遂げてきました。今こそ地方消滅の波に立ち向かい、次の世代につなぐ持続的な地域づくりに取り組まなくてはなりません。この観光地域づくり計画に基づき、上松町の歴史文化を反映したコンセプトを確立することで、各観光地にとどまらず町全体で来訪者をおもてなしできる地域づくりを目指します。折しも伊勢神宮の式年遷宮行事が近づき、上松町の本領を発揮する機会が訪れようとしています。内外に上松町の「森の郷」としての姿を広く伝え、癒しを求めて自然や木の文化に親みたい方々を温かく迎える将来像を実現するべく取り組んでまいります。